

# 第8回 ジェンダー平等ミーティング

2025年11月30日(土)

「取組発表(フェスタ)」

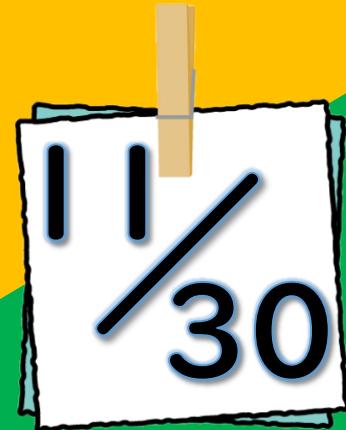


テーマ

## 取組発表 (フェスタ)



「G-NETしがフェスタ2025」にて、今年度のジェンダー平等ミーティングで学んできたことについて発表をしました。滋賀大学経済学部・データサイエンス学部のみなさんの発表もあり、お互いの発表を聞き合い、学びを深めました。フェスタに来てくれた方も、発表を聞きにきてくれました。



# ジェンダー平等ミーティング1班

## 【現状分析】

- ・ 高校生との意見交換会や、LGBTQ+の意味・内容の認知度を踏まえて、  
ジェンダー平等の意識醸成が十分でない 等

## 【取組提案】

- ・ 性別の先入観がある職業について、授業等の場で、実際に働いている人  
から話を聞いてはどうか
- ・ 意識を変えるのは難しいため、まずは制度を変えることが効果的ではないか
- ・ 意識を高めるためには、若者同士の‘つながり’や大学生と政治家などの  
様々な‘つながり’がポイントになる 等

## 【参加者の意見、感想】

- ・ スカートやズボン、メイクなど好きなものを着れるような世界になって  
ほしい
- ・ 今の高校生の声を聞き、自分が高校の時との変化などを感じることが  
できた 等

# ジェンダー平等ミーティング2班

## 【現状分析】

- ・ 小学校段階等の学校教育が、その人の人格・思想の形成に大きな影響を与える 等

## 【提案内容】

- ・ 滋賀県独自の取り組みである「うみのこ」でジェンダー学習をしてはどうか
- ・ 記憶に残り、世代を超えた、また、他の学校との共有・交流ができる等のメリットがある
- ・ 「ジェンダーかるた」や研修会を開催してはどうか 等

## 【参加者の意見、感想】

- ・ セクシュアルマイノリティについて、学校教育が性別に関する知識や気づきを得られる機会になってほしい
- ・ 避難所での性被害が多数報告されるなど課題があり、防災でのジェンダー平等に取り組む必要
- ・ 記憶に濃く残るイベントとして取組を進めるべき 等

# 滋賀大学①選択的夫婦別姓制度について

- ・選択的夫婦別姓制度は、個人の尊重と多様性の実現を進めるために重要な制度である。
- ・姓はその人のルーツや生き方を示す大切なアイデンティティであり、結婚を理由に法律によって、どちらか一方が改姓を強いられる現状は、自己決定権を不当に制限していると言える。
- ・世界では多くの国がすでに選択的夫婦別姓制度を導入し、結婚後も互いが自分の姓を名乗ることが自然な選択肢となっている。  
それに対し、日本は依然として夫婦同姓を義務づけており、この点で国際的にも少數派である。  
特に、日本では改姓の多くを女性が担っており、ジェンダー平等の観点からも問題が残る。
- ・個人が自分の名前を守りながら対等に結婚できる社会を実現するため、この制度を導入するべきであると考えている。

## 滋賀大学② ジェンダーと服装について

- ・ファッションには8つのファッションイメージがあるが、性別による特定の対象は存在していない。どのようなファッションをするかは自由で、制限はない。
- ・服装の選択は必ずしも性表現の手段ではない（デザイン・快適さ・機能性）
- ・ジェンダーレスな服装の受容も、社会制度や意識の変化を少しづつ取り入れることで定着可能！
- ・2025年現在、全国の中学校・高校でジェンダーレス制服の導入が進んでいる。特に、女子生徒のスラックス導入は急速に増加しており、2023年には累計3000校を超える学校が女子スラックスを採用している。色や柄、機能性を統一することで、性差を感じさせないデザインが特徴です。体のラインを強調しない配慮もなされており、誰もが着こなしやすい工夫がされている。
- ・性同一性障害や性的マイノリティの生徒にとって、自身の性自認と異なる制服の着用は大きな苦痛となる場合があります。文部科学省も性的マイノリティの児童・生徒へのきめ細かな対応を求めており、制服の選択肢を増やすことは、不登校や精神的な負担を軽減することにも繋がる。

## 感想

- ・ファッションが性別を判断するための材料ではなく、その人自身を示す表現方法の一つであると認識することが大切。男性がスカートを履いていたり、女性がスラックスを履いていても違和感持たずに受け入れる、何も気に留めないことが大切。
- ・制作過程の中で今ある課題を改めて見つめ直すきっかけになり、社会に存在する固定概念や先入観を実感する機会になりました。教育とジェンダー、防災とジェンダーなど、ジェンダーは様々なものと繋がりがあるということを考えさせられました。
- ・ジェンダー問題はやはり触れるのがむずかしいイメージや印象がありましたがやはり大切なことだと再確認できました。またこれからも考え方広め多くの人が知れるようになったらいいなとおもいました。
- ・うみのことジェンダーを組み合わせるのは面白いなと思います。僕もうみのこを小学生のときに経験していて、よその学校も参加していて、そこでジェンダーかるたなどをして、ジェンダーについて学ぶのは良い思い出になると個人的にも思います。

自分の関心があること以外にも様々なことを知りながら取り組むことができた。これからも自分の知見を広げられるような活動ができたら嬉しい。

## 感想

- ・ジェンダー平等ミーティングのかたたちが1人1人の意見をスライドに載せていてすごいいいなと思ったし活動内容がわかりやすく掲載されていてよかったです。また服装とジェンダーチームはほんとに身近で起こっているジェンダーに関する問題を取り上げられていて興味を持ってプレゼンを聞けた。自分たちは言いたいことはうまく言えたかわからないけどすべて出し切ったのでよかったです。
- ・自分たちの取り組みを人前で発表する機会はあまりなかったので緊張したし難しかったけど出来て良かった。他の発表を聞いてすごく学びになったし自分が学んだことだけでなく夫婦別姓制度や服装についても調べていきたいなと思いました。
- ・ジェンダーについて学ぶ機会がないと知ることもなかったという場合もあると知り、どのような形であれまずは授業でジェンダーについて触れることが必要だと考えました。
- ・選択的夫婦別姓というワード自体は聞いた事あるが、内容や実態は詳しく知らなかつたため勉強になった。